

Serum adiponectin predicts fracture risk in individuals with type 2 diabetes : the Fukuoka Diabetes Registry

小森田, 祐二

<https://hdl.handle.net/2324/1866275>

出版情報 : 九州大学, 2017, 博士 (医学), 課程博士
バージョン :
権利関係 : やむを得ない事由により本文ファイル非公開 (2)



(別紙様式2)

氏名	小森田 祐二			
論文名	Serum adiponectin predicts fracture risk in individuals with type 2 diabetes :the Fukuoka Diabetes Registry			
論文調査委員	主査	九州大学	教授	小川 佳宏
	副査	九州大学	教授	中島 康晴
	副査	九州大学	教授	萩原 明人

論文審査の結果の要旨

一般集団では血清アディポネクチンが骨折リスクに関連することが報告されている。一方、2型糖尿病は骨折リスクを増加することが知られているが、2型糖尿病において血清アディポネクチンが骨折を予測できるか否かは不明であった。本研究では、2型糖尿病患者における血清アディポネクチンと骨折リスクの関連を前向きに調査した。閉経後女性1,951名と男性2,754名を含む合計4,869名（平均年齢65歳）の2型糖尿病患者を対象とし、主要アウトカムを全部位骨折と主要骨粗鬆症性骨折として追跡調査した（追跡期間の中央値は5.3年）。

対数変換血清アディポネクチン標準偏差あたりの年齢調整ハザード比は、閉経後女性では、全部位骨折1.27、主要骨粗鬆症性骨折1.35、男性では、全部位骨折1.22、主要骨粗鬆症性骨折1.40であった。高アディポネクチン血症（ $\geq 20\mu\text{g/ml}$ ）の主要骨粗鬆症性骨折に対する多変量調整ハザード比は閉経後女性では1.72、男性では2.19であった。高アディポネクチン血症の主要骨粗鬆症性骨折に対する寄与危険割合は、70歳以上、女性などの既知の骨折リスク因子と同程度に高かった。以上より、閉経後女性を含む2型糖尿病患者では、血清アディポネクチン高値は全部位骨折と主要骨粗鬆症性骨折リスクの上昇に有意に関連することが明らかになった。

以上の研究成果は、この方面の研究の発展に重要な知見を加えた意義あるものと考えられる。本論文に関する試験では、論文の研究目的・方法・実験成績などについて説明を求め、各調査委員より専門的な観点から論文内容と関連事項に関する質問を行い、概ね適切な回答を得た。

以上を踏まえて、調査委員の合議の結果、試験は合格と決定した。